令和４年１月２１日

第４回学校評議委員会報告

本日、早稲田大学教職員大学教授の三村先生にもお越しいただき、学校関係者評価委員会を開催いたしました。今年度の、「学校評価アンケートの結果」と「自己評価」をご説明申し上げ、以下のとおり、評議員の皆様からご意見、三村先生からのご指導・ご助言をいただきました。

評議委員の皆様より

〇コロナの影響でボランティアができなく地域とのつながりが希薄になってしまったのではないだろうか。
〇図書館を活用するのもコロナの中で大変だと思う。
〇教育相談の分野で、子どもたちに不安なところがあるのではないだろうか。
〇今までは子ども同士で解決できていたこともそれがコロナの影響でできなくなり、年齢的に親には言いにくい、かといって先生にも相談しにくいと思っている子どもがいるのではないだろうか。
〇道徳教育について、生徒と教員の評価が似ているのに対して、保護者が大きく下回っているのは、保護者はあまり関心がないということではないだろうか。
〇生徒・教員の結果に比較して保護者の方の結果にギャップが見られるのは確かである。子どもから保護者に伝えているものはギャップが小さくなり、伝えにくいものはギャップが大きくなっているということは考えられないだろうか

三村教授より

〇院生が本校で実習をしているので、授業を見に本校に来ることがあるが、生徒たちが生活の仕方を工夫している姿がある。
〇生徒から評価が高いのが多いのは、生徒と教員の信頼関係があるからだと思う。
〇大学では、コロナ１年目にすぐにオンライン授業をして、「これでいいんじゃないのか」と当時は思っていたが、２年目になり、できるだけ対面でやるようにしている。対面でなければ汲み取れない側面がたくさんある。
〇どれも評価が高いが、特に道徳教育においては高い。本校では「議論する道徳」を実践している。かつては答えに導く道徳であったが、今ではジレンマから入って、そこからどうすればいいのかをみんなで考えさせる道徳に転換されている。それをいち早く実践し始めたのが本校であり先賢の目がある。これらの授業により、子どもたち同士の信頼関係も築けてきているのではないだろうか。
〇今では、不確かな情報が流れて、何が正しくて何が正しくないのか見極める力が必要になっている。また、ありもしないことが拡散されて人に対して恨みをもちやすくなっている。
〇しかし本校の「議論する道徳」により、生徒たちはこれらを乗り越えていけると思う。
〇ＩＣＴ教育に対する評価も高い。タブレットを授業で活用したり、持ち帰らせたりしている結果だと思う。
〇大学でもそうだが、先輩と後輩の関係が切れている。今回のコロナにより、当たり前に伝承されていたことが、切れることがあるんだと思った。本校でもそうだと思うが、切れてしまったものは、後輩が自分たちで新しい伝統をつくっていく力が必要になる。
〇New 三中を構築していってもらえればと思う。